

組織目標評価報告書（令和6年度）

19

部局名： 異分野基礎科学研究所		学域名： —	部局長名： 沈 建仁
目 標 ・ 取 組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)	
①教育領域		教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等	
・博士後期課程「異分野基礎科学コース」の教育体制を充実させ、学生の集団研究指導体制を完成させ、「研究力を高める教育」を実践することにより、国内外から学生を積極的に勧誘しコースの定員充足率をあげる。 ・学際的な教育・研究による学生の多様なキャリアパスを形成する教育課程を実現するため、専攻の共通履修科目、プレゼンテーション力を修得させ、プロジェクト・マネジメント実習としてインターンシップまたは学会発表により、学生の実践能力を高める。 ・本専攻の学生が研究活動に集中できるようにリサーチアシスタントとして雇う。 ・学生の海外への派遣、海外からの学生の受け入れを積極的に推進し、教育環境の国際化をはかる。	関連する 中期計画の番号 5-1 7-1 9-1	・所属コア以外の授業科目や実習科目を積極的に習得してもらった。4月と10月で国内外から合計14名の優秀な新入生が異分野基礎科学コースに入学し、定員を大幅に超過した。 ・コースの共通科目であるプレゼンテーション力やインターンシップの習得を通して、学生のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上させ、実践能力を高めた。 ・優秀な博士後期課程の大学院学生を非常勤研究員として17名雇用し、研究活動に集中できる環境を整え、研究を推進した。 ・大学間および部局間協定の新規締結・格上げ・更新を5件行い、国際交流を積極的に行った。 ・学生の海外派遣を4名、海外からの受け入れを10名、その他さらにプログラムにより7名の受け入れを行い、国際交流を積極的に行った。 ・研究所として3件の国際シンポジウムまたはミニワークショップを主催または共催し、研究所内でセミナーを積極的に開催し、それぞれの分野の最新の知識を習得するよう、学生の教育環境を改善した。	
②研究領域		研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等	
・「基礎科学研究の深化発展と異分野融合的研究展開による新しい学問分野の創出と国際的な研究活動の推進」の理念に基づき、物理学、材料科学と基礎生物学を中心に研究支援を図る。 ・高インパクトファクター雑誌とQ1ジャーナルへの論文掲載、Top10%論文数、若手教員による論文数および国際共著論文の増加を図る。 ・クライオ電子顕微鏡を利用した国際構造生物学研究センターでの研究を推進する。 ・クライオ電子顕微鏡の共同利用を促進する。 ・科研費獲得率がさらにあがるよう、申請書の添削や関連研究への支援を行う。	関連する 中期計画の番号 8-1 9-2	・物理学と基礎生物学の研究を重点的に支援し、多くの成果を創出した。 ・約100報の論文を発表し、そのうち、IF(インパクトファクター)10以上の高IF雑誌の論文15報、Top10%論文15報、Q1ジャーナル論文67報、若手教員による論文30報、国際共著論文33報を含んでいる。 ・基礎研の英語セミナー(RIISセミナー)や各研究グループの英語セミナーを実施し、研究活動に関する情報交換を活性化した。 ・外国人数員の研究グループとRECTORプログラムの海外PIIによる研究グループの研究環境整備を支援した。招聘したハーバード大学のドイル教授との共同研究は順調に進展した。 ・科研費申請書を添削や関連研究を支援し、継続研究の他、新たに基盤研究S1件、JST-CREST代表2件を始めとする多くの外部資金を獲得した。 ・地域中核大学推進事業(J-PEAKS)事業を積極的に推進し、また、概算要求プロジェクトであるヘリウム液化供給システムを中規模設備に申請し、中四国播磨地区におけるヘリウム拠点構想が採択され、その実施を推進した。 ・国際構造生物学研究センター事業を推進し、クライオ電子顕微鏡の学内外による共同利用を促進し、さらにJ-PEAKS事業の一部としてクライオモグラフィ用FIB装置の導入を決定し、岡山大学の構造生物学関連研究を推進した。	
③社会貢献(診療を含む)領域		社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等	
・学会等の活動に積極的に参加し、学会の役員、各種の専門雑誌等における編集委員などを増やし、研究者コミュニティにおいて異分野基礎科学研究所の存在感を増加させる。 ・国際組織、国、地方組織における各種専門家会議のメンバーとして積極的に活動することを推奨する。さらに、学会の年会、国内および国際会議、セミナー、ワークショップ等を開催することを推し進め、研究者コミュニティにおける学問の発展に貢献する。 ・各種企業ならびに地域の中小企業等の技術相談に積極的に応じる。また、海外の大学や研究機関との交流協定を推進し、国際共同研究遂行の体制を強化する。国内外ならびに地域においてSDGsを念頭に置いた社会活動に積極的に取り組む。 ・研究所として国際会議を開催または共催する。	関連する 中期計画の番号 8-1	・日本光合成学会会長、国際光合成学会アジア・オセアニア担当理事、International Foundation of Photochemistry (IFP) Executive member等各種学協会での役職等を担当し、学協会での当研究所のプレゼンスを向上させた。 ・国、地方組織における各種専門家会議にメンバーとして積極的に活動し、また、各種国際・国内会議・シンポジウム・セミナー・ワークショップ等を積極的に開催し、研究者コミュニティの形成や学問の発展に貢献した。 ・企業等からの技術相談や共同研究を積極的に推進し、また、海外大学や研究機関との交流を積極的に推進した。 ・The 15th International Workshop on Fundamental Physics Using Atoms (FPUA2024)等を岡山大学で開催し、また、各種国際学会・シンポジウム等で基調講演・招待講演を含む講演を行った。 ・Journal of Photochemistry and Photobiology C: Photochemistry Reviews, Editor-in-Chiefをはじめとして、編集委員として、6件の国際誌(Scientific Reports, Advanced Electronic Materials, Journal of the Physical Society of Japan, Physica A, International Journal of Molecular Science, Photosynthesis Research)の編集委員を務めた。 ・文部科学大臣表彰 若手科学者賞、第6回小林賞、第7回畫馬輝夫 光科学賞受賞等の重要な賞を受賞した。	
④管理運営領域		管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等	
・個人の発想を尊重し研究課題を深化しながら、異分野融合の研究を進め、研究所の理念を実現するための体制を構築する。 ・研究所の若手・女性・外国人数員が研究活動に集中できる体制を整備する。 ・研究活動を活性化するため、研究所の研究活動の状況を把握し、投資すべき対象を選択し、傾斜配分方式で限られた資源を配分する。 ・コンプライアンス教育を推進し、法令順守のもとで研究活動を行う。	関連する 中期計画の番号 9-2	・コア長会議による調整会議を適宜行い、研究所教授会は合計11回行い、研究所の重要事項を議論・決定した。 ・女性や外国人数員に必要な財政的支援を行い、研究活動や異分野融合研究を推進した。コア長会議や研究所教授会等において、日常的に研究所の提案・要望・問題点を共有した。 ・研究所の研究推進状況に応じて、活発に行われている領域に重点配分した。 ・コンプライアンス教育などの講習会に参加し、コンプライアンス教育の受講を徹底した。コンプライアンスに関する問題が特に生じることはなかったが、いつでもオープンな議論ができるよう研究所の体制をコア長会議および研究所教授会を介して維持してきた。	

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。
注2) 自己評価による達成度(5〜1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。